

9番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま登壇の許可を得ました9番山口です。今まで、山口昌宏議員やら小池議員というすばらしい一般質問があった中で、ちょっとやりにくいわけですけど、私なりに一生懸命やりたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

まず私は、今回の一般質問では、最初に、武雄青陵中学校の開校というものがいよいよ始まるわけです。それに伴い教育問題が大きく変わろうとしています。この中高一貫教育の武雄での開校と、それに伴う教育問題を取り上げたいと思っています。

次に、今議会では、どの議員も財政問題を取り上げておられるわけです。その中で私は、根本的には、今議会で提案されている後期高齢者医療費の対策にありますように、高齢者の医療費問題をどうするかが一番の、この財政問題では大きな問題じゃないかと思っています。それで、この問題を解決する道はどんなものがあるか。そのためには、公民館を中心に、高齢者や地域住民が近くのスポート施設や公民館に集まり、スポーツをやったり、屋内で歌や踊り、碁、将棋など、頭や体を使う機能を回復する運動。

次に、武雄は農村部です。先ほど農業問題がいろいろ議論されましたけど、私はその中で中高齢者の農業対策というものが大事な農業問題じゃないかと思っています。そんな中で、足や腰を鍛え、また頭を使い、それを身近な人におすそ分けし、時には宅急便を利用して遠くの子や孫に送り、コミュニケーションの橋渡しとなるような農業。おじいちゃん、おばあちゃんのつくった農産物はうまかよというふうな、そういうふうな生きがい農業、それもあっていいんじゃないかと思っています。

次に、高齢者の交通安全問題です。交通事故が引き金となって寝たきりになったり、また高齢者の運転ドライバーもたくさんになっております。そんな中で、高齢者講習を充実させて、おじいちゃんの運転は上手かねと言われて、時には孫たちとドライブ旅行ができるような元気なおじいちゃん、そんな方がたくさんふえて、なるだけ病院にかからない高齢者、すなわち医療費が要らないまち、武雄の建設というものが大事じゃないかということ、今、私は考えております。そんなことを今度の一般質問の中で取り上げたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

まず、中高一貫の問題です。武雄で二、三日前ですかね、武雄青陵中学校の願書受け付けが終わりまして、ある程度の願書の締め切りがなり、応募大勢が出たわけです。そんな中で、武雄地区からどれぐらいの方がこの中高一貫の青陵中学に応募されたのか、また全体の応募者数あたりがわかったら、お聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

お答えをいたします。

武雄市内の学校からの応募数は273名、青陵中学全体では420名でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

武雄の中高一貫校の校区は、佐賀県の西部地区でありまして、伊万里市、鹿島市、嬉野市、武雄市、有田町、大町町、江北町、白石町と、4市4町からの小学6年生の子供たちが受験してくるわけです。

そんな中で、ことしの小学6年生の数を中学校区で見ますと、武雄市内での武雄中、武雄北中、川登中、山内中、北方中を合計しますと、630名の子供が今、小学6年生であるわけです。その中から273名が受験するわけです。そして、これが先ほどの佐賀西部の校区としますと、2,581人の子供がおるわけです。その中から420名が、この青陵中学校に受験をするわけです。そうした場合に、この子供たちが受験した場合の武雄青陵中学に入るときまでのスケジュールはどういうふうになっているか、選抜方法等まで含めてお願いします。質問します。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

選抜方法は、第1次選抜と第2次選抜ということで、第1次選抜は適性検査、これが1、2ということで各50分。それから、集団面接というのが行われます。そして、第2次選抜として、1次通過者による抽せんが行われて、入学予定者が決定されると、こういうふうな手順で行われるようでございます。

それから、日時のことでございますが、これまで説明会が行われまして、先般、願書が締め切られました。その後、入学の選抜検査というのが行われるわけでございますが、これからそういうふうなことで進むことになります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

第1次選抜の後に抽せんが行われて、第2次選抜が行われるということですけど、その場合に、私が聞きよるところによりますと、今度の選抜では160名が合格するわけですね。そのうちの、第1次選抜で2倍の320人に絞られるということで、それが第2次選抜で160人になるというふうに理解していいわけですか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

第1次、第2次と、今議員おっしゃったような数字になるかどうかは、これは私どもとしては確認、理解をしておりません。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

数字的に、第1次選抜が320人になるか、プラスアルファになるかということは、まだ選考ということで確定はしていないということですね。それに近い数字が第1次選抜の中で選抜されまして、抽せんという形で第2次選抜で、それは公開であるわけでしょう。（「そうです」と呼ぶ者あり）公開で選抜が行われて、最終的に160人になるということです。

そんな中で、私はこの中高一貫校というものが、現在、武雄青陵中学というものが、いろんな形であり方、ありようが説明をされてきているわけですけど、十分にその説明が行き届かなくて不安もあるというのが事実ではないかと思っています。

そんな中で、私は一番危惧するのは、中高の一貫中学ではなく、市立の現在ある武雄中学、武雄北中学、川登中学、山内中学、北方中学という今までの学校に行く子供たちです。そこには、今言いましたように、現在、武雄市内の小学6年生は630名いるわけです。その中から273名が今のところ受験をしようということで手を挙げているわけです。その中から、160名のうちに武雄から何人行くかはわかりません。しかし、その子供たちが武雄青陵中学校に通い、あとの市立の中学には、そこに行けなかった子供、受験しても不本意に落ちた子供と、また最初から受験をしなかった子供。1次には上がったけど、2次で落ちた子供と、いろんな形で子供が入るわけです。そして、どうしても地域活動では、子供クラブや、前ありましたように、いろんな地域活動、子供クラブ活動をやっている子供たちのリーダーシップをとるのは、限定はされませんが、どうしてもリーダーシップをとるといような子供は、この青陵中学校に行くんじゃないかなというふうな憶測をするわけです。そういう中で、市立中学校というものがどういうふうになっていくかというものを私は心配するわけです。それをどういうふうサポートするのか。県立中学校と市立中学校は、教育方針は異なると思うわけです。また、それができなくては、県立中学ができた意味はないわけです。それをどういふふう市立中学校の指導、また市立中学校のよさを市民にアピールするかというものは大事な問題と思いますが、その点はどういうふう考えておられるでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

県立中学校、市立中学校、いずれも現学習指導要領にのっとった学習内容をするということは、これは共通項でございます。ただ、県立中学校は、中高の6年間を見通した教育課程を編成し、子供たちの生きる力をはぐくんでいこうと、こういうのが大きな違いだと思います。

す。

市立中学校といたしましては、実はこれまで学校説明というものを、少し今までよりも遅くしておったわけですが、県立中学校の方がこのようなパンフをつくって、県立中学校のあり方等について、実は学校説明会等でやってきたわけですが、それで私ども、市立中学校の方もそれに負けてはならないということで、学校長を中心にして、これは川登中学校でございますが、こういうふうなパンフをつくりまして、学校説明に回りました。これは武雄北中学校でございます。それから、これが北方中学校。それから、これは武雄中学校でございます。このようにそれぞれの学校像というものを子供たち、あるいは保護者の皆さん方に、これまでよりも、こういうパンフ等を使って、こういう学校になしてみたいというようなことを本年度はやっていたわけですが、これからも一層これを充実しながら、市立学校の特色ある中学教育の展開をしていかなければならないと、そういうふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、教育長からありましたように、いかに市立中学校の子供たちに、武雄で中学時代を学んでよかったと言われるような教育というものを、ぜひお願いしたいと思います。今、学校の先生たちも、自分で行きたい学校を選べるような、いろんな制度が出てきたわけですので、武雄の中学校にぜひ行って、あそこで教育をしたいというふうな先生たちがふえるような政策というものが大事じゃないかと思っています。そうすることが元気な武雄づくりにつながると思っていますので、よろしくをお願いします。

次に、この武雄青陵中学校が中高一貫ということで6年間の教育をするわけですが、そして、小学6年生のときの第1次の選抜がありました。これで次に、今度は中学3年生のときに、武雄青陵 学校が何となるかわかりませんが、中高一貫の高校の部に編入制度があるわけですが、そこによりまして、280名の子供が、中学校部160人、その後3クラス分が中学3年生の時点で再選抜をされて、中高一貫の教育が進むわけですが、その中に進む子供というのは、先ほどの、どうしても佐賀西部地区では優秀なる子供たちというものがたくさん集まって、その中でサバイバルで勝ち残った子供が武雄の学校に来ると思います。そんなときに、武雄の子供というのは、高校を選ぶ機会が少なくなるということが次に心配になってくるわけですが、

現在、武雄市内には、佐賀女子高という学年80名の高校が一つあります。嬉野市には嬉野高校、塩田工業。有田町には有田工業。伊万里市におきましては伊万里商業、伊万里高校、伊万里農林、それに敬徳。鹿島市には鹿島高校、鹿島実高。太良町には太良高校。大町町には杵島商業。そして白石町には白石高校と佐農という県立、また私立の高校があるわけですが、

そんな中で、武雄市内以外の子供たちは、武雄の中高一貫には自分の意思で、それは武雄も一緒ですけど、自分の意思で、それなりの努力をして受かった子供たちが上を目指してくるわけです。そして、その地域に残った子供たちは、今までどおり実業高校なり普通校という、その地域にある高校に行くわけです。反対に武雄の子供たちは、優秀なる子供が佐賀西部地区から集まり、中高一貫高校を目指した子供たちの中に、不幸にも入れなかった子供たちは、自分の意思で学びたい学校というものを目指して、鹿島なり、伊万里なり、嬉野なりと周辺部の高校に行くわけです。先ほどの議員の質問ではありませんけど、武雄は今から佐賀西部地区の中心都市にならばらんというときに、中高一貫校が一つしかないということは寂しいということで、以前の市長には何度となく言ってきたわけですけど、事ここに来て、今さらそれを言ってもどうにもならないわけですけど、それが寂しいわけです。

そんな中で、第1次の再編で青陵高校がこういうふうな形になったわけです。次に、第2次再編ということで、今こちらで考えられているのは、杵島商業と佐賀農業高校、そして伊万里商業と伊万里農林の農業系と商業系の合併という統廃合というものが考えられているわけです。これがうまく進むと、いよいよもって、武雄から次に近い大町にある杵島商業までなくなるわけです。そして、佐農という白石にある高校で、また新たな教育が始まるわけです。

また、そういうふうになった場合に、それで本当に武雄を自慢にするような子供たちが育つかなということを思うわけです。周辺部の伊万里では、伊万里商業と伊万里農林が合併ということで、大分反対運動がっております。また、前にも牛津高校では、地元、地域に密着する学校を残さんばらんということで、大変大きな運動があったわけです。そんな中で、県内の再編というものは、また次に第2次、第3次と進むかもわかりません。しかし、なぜ武雄地区だけがねらい撃ちされるのかというものは、私は疑問を持つわけです。その点、市長、どういうふうにお考えをお持ちか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

半分同感で、半分意見を異にします。というのも、まず武雄だけでこれをねらい撃ちじゃ、私はなかと思っています。オールジャパン、あるいはオール県下で見たときに、子供の数がやっぱり減ってきてきよるわけですね。私が高校生ときは全国で200万人近くおったのが、きのう福祉保健部長が答弁しましたけれども、今の高校生になる人たちというのは、もう100万人になっていると。たった20年か30年で、それがもう半分になっておるわけですね。だから、それに応じて、その受け皿である高校が減っていくというのは、それは仕方なかというふうに、時代の趨勢だと思っています。だから、その中で、200万人おる中で高校がどんどん減っていく。これは、私は絶対問題だと思っていますけれども、ある意味、器が身の丈に

応じて減っていくというのは、一定やっぱりそれは、よしあしは別にして、仕方のないことだというふうには思っています。

そういう意味で、今回の新武雄市の中学校に、やっぱりここに入学したかと。県立の青陵中じゃなくて、武雄市の武雄中学に行きたいというふうに思ってもらえるような武雄中学校にしてもらわんがた、私も困るわけですね。そういう意味での、私は応援もしたいと思いますし、やっぱり教育というぎ武雄に行かんばと。それは県立はあるにして、そういうものにしていかなければいけないというふうに思っています。そういう意味で、私は決して悲観視をしているわけではありません。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私も市立中学校の充実というもの、これはもう最大限の大事な武雄の教育問題だと思っています。それができてこそ教育だと思っていますので、その点は同感するわけです。

しかし、県立高校の再編というものは、前のときに、もっと僕らは運動するべきだと思いましたが、商業と農業が合併するということが、私も農業一筋の人間です。そんな中で農業高校でも学びました。現在の農業高校生も、私の家あたりで、地域で研修を受けたりして交流をするわけですけど、農業高校というものは臭い。時には血を見ることもあるし、汗を流し、汚いというふうな格好の中で、あすの農業を目指した子供たちが教育を受けているわけです。その反面、商業というものは、きれいな空気の中で、きれいな施設の中で、そういう環境で、教室の中でパソコンなりを学んでいるのと、大型のコンバインを真夏の中で稲刈りをする人間が、同じ土俵で、片一方は汗をびしょりかきながら、片一方は汗もかかない静かなところで学ぶというものは、ちょっと違うわけです。それを一緒に教育になそうというものが、今の県の統廃合です。

今、県内の県立の農業高校を見ますと、農業高校という看板は全部なくなりそうです。よその地域を見ますと、今、食育を考えた場合、農業高校というものは寄宿舎制度を設けながらも県内の子供を1カ所に集めて教育するという形が残っているわけです。そんな中で、ぜひ私は、伊万里のように伊万里農林と伊万里商業が、農業と商業がひつつくような、ただ定数合わせのような統廃合には、もっと真剣に検討するべきじゃないかなということを私は思っています。ここでいろいろと答弁は求めませんが、これは私の自己主張として皆さん聞いてもらえれば幸いだと思っています。

次に移りまして、朝日町の保育園のことと、朝日町グラウンドのことについての問題に移ります。

朝日町民グラウンド建設推進委員会ということで、このような形で要望書ができております。その一部を読ませてもらいます。

さて、朝日町まちづくり推進会では、平成元年度に武雄小学校運動場に夜間照明施設を設置するなど、これまでも町民を挙げてスポーツ活動の環境整備に努めてきました。しかし、一方では、生涯スポーツ等が盛んになるにつれ、町内に活動できる場所が、市内の小・中学校の中で面積が一番狭い朝日小学校の運動場だけしかないということで、朝日町では一貫してまちづくりにグラウンド建設というものを叫んできました。一方、武雄市当局では、朝日保育所、朝日第二保育所の統合に向けての検討が進められていると聞きます。町民も早期の実現がなされるよう、全面的な協力は惜しみません。そして、将来的には、子育てしやすい環境づくり、健康づくり、高齢者の生きがいづくり、子供から高齢者までが触れ合う町、朝日町の建設に頑張りたいと、朝日町民グラウンド建設推進委員会が平成18年7月7日に陳情しているわけです。

私は、この問題というものは朝日だけの問題ではなく、先ほど冒頭言いましたように、高齢者医療を考えた場合、健康なお年寄りが、汗をかき、頭を動かし、健康に留意して、病院に行かないようなお年寄りができるれば、それだけ国民の負担や、我々国民健康保険の負担も少なくなり、ひいては財政の健全化につながるんじゃないかと思って提案しています。ぜひこれを私は、朝日のグラウンドができたならば、周辺部につながり、そして周辺部の地域住民が運動し、元気なまちができることを希望して提案したいと思います。その点についてよろしくをお願いします。

そこで、まず、子育て環境整備の中心にあります朝日保育所と第二保育所の統合と、その施設の充実。延長保育や、武雄保育所だけで行われている1日保育などが充実し、子育てするなら武雄という保育所建設を願っているわけです。

そこで質問です。ちょっと今、保育所の問題だけです。朝日の統合保育所は、

〔発言取り消し〕

、市民

に向けて再度、なぜ統合が必要なのか、民営化が必要なのかということ、市民の皆様を理解を得るためにも再度求めます。そこで、今後、新しい土地での民間保育所の開設と、朝日保育所の開設へのスケジュール等の御説明をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

お答えいたします。

保育所の民営化の計画でございます。民間と競合する業務のうち、民間でできるものは民間移管を推進するという行政改革の考え方ですね。これに基づきまして、公立保育所の民営化を進め、行政運営の効率化と行政サービスの向上を図るため行っているものでございます。また、限られた財源を、選択と集中により効果的に運営するため、運営経費が民間に比べて多額となる公立保育所を民営化することにより生み出された財源を使い、増大、多様化する

保育需要への対応、子育て支援対策の充実を図るために民営化するものでございます。

スケジュールでございますが、これはさきの6月議会でも申し上げていると思いますけど、平成19年度、用地を取得し、21年の4月に開校したいというふうに考えているところでございます。

〔22番「議長、議事進行」〕

議長（杉原豊喜君）

22番平野議員

22番（平野邦夫君）

ちょっと私の記憶違いなら申しわけないんですけども、朝日の第一保育所、第二保育所を統廃合して、一つにまとめて統廃合して第三地点につくるという、これが賛成多数で決められたと質問者は言っていますが、具体的事実に基づいて執行部は答弁していただかないと、いつの議会で、合併の前の議会でしょうけど、どういう議案に賛成多数で通ったのかね。それは質問者の方がしっかり資料を持っておられるでしょうから、それを明らかにしてください。

議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休 憩 14時14分

再 開 14時16分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ここで、2時25分まで暫時休憩をいたします。

休 憩 14時17分

再 開 14時25分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

先ほどの私の一般質問の発言内容の一部を取り消したいと思います。

「 〔発言取り消し〕 」

というものを削除して発言したいと思います。

以上、よろしく申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

ただいま9番議員より発言の取り消しの申し出がありましたが、申し出のとおり許可することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、9番議員の発言の一部を取り消すことに決しました。

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

お答えいたします。

若干、経過について御説明をさせていただきたいと思います。

これは、18年度に入ってから経過でございますが、ことしの7月26日に、福祉生活常任委員会におきまして、保育所民営化計画の説明をいたしております。その後、8月に入りまして、朝日統合保育所設置推進代表者会議、これは地元の代表者の方たちに集まっておきまして、保育所民営化の説明をいたしております。そしてまた、9月には、市の職員を対象にいたしまして、同じような説明会を開いております。そして、9月には朝日保育所、そして朝日第二保育所の愛育会、保護者会におきまして、この説明会と、それから統合保育所の場所の問題について協議をいたしております。10月に入りまして、朝日統合保育所設置推進代表者会議というものの第2回目を開いております。また、11月22日は福祉生活常任委員会を開きまして、これまでの経過について御説明をしているところでございます。

また、予算措置としましては、9月の定例会におきまして運業者ですね。運業者の選考委員会の委員報酬の予算を計上いたしておりますので、皆さん方、御記憶にあられると思います。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

では、こういうふうな形で、今、統合保育所というものが進んでいると思います。そこで、ぜひ私は、この保育所というものが自然に親しみ、また、市長が言っている食育というものが大事だと思っていますけど、その中で私は、さきの福祉生活委員会の方で福井県の小浜市に研修に行ったわけです。その中で、幼児を対象にした、包丁を持たせて、付き添いの保護者はガラスの向こうにおいて見詰めるだけで、地域ボランティアの食会の人の指導での料理教室を、食育ということで聞いてきたわけです。すばらしい食育というものが幼児の中でなされてました。

今後、私は、新しい保育所ができた場合に、こういうふうに自然に密着し、食の大事さというものを教えるような保育所の開設ができればいいなということを思っているわけです。そんなのを、今ひょろっと言っているんですけど、ぜひできるように進めてもらいたいわけですけど、よろしくお願いします。市長の意見を聞きたいです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も、今度民営化された保育所については、山口議員と全く同じ考えであります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

では次に、健康増進の問題に移ります。

今議会に提案されている、佐賀県後期高齢者医療広域連合の設立というものがあるわけです。75歳以上の高齢者というものは……（「グラウンドの話ね」と呼ぶ者あり）グラウンドの話です。75歳以上の後期高齢者は、全国で約1,300万人。それに対する後期高齢者医療費というものが11兆4,000億円ということで、老人1人当たり877千円となるわけです。1人当たり、これだけの額が高齢者の方に医療費として負担されているのです。これをどうするか。健康で長生きして元気な余生を生きてもらうために、我々是对策を講じなくちゃならないと思っています。それがグラウンドだと思っているわけです。

ここに、医療制度改革の概要も福祉生活委員会の方で勉強したわけですけど、今からは疾病予防を重視した保健医療体系への転換を図り、生活習慣病対策を大事にして、メタボリックシンドローム、内臓脂肪症候群に着目した健康・保健指導というものが大事になるわけです。それらを考えて、ぜひ今からは、地域でスポーツをやり、地域で健康を守るようなことが大事じゃないかと思っているわけです。そこで私は、ここで格好よく表を出して、武雄市内の医療費がどういうふうになっているということを出したいわけですけど、いま一つ、数字に対しては私も弱うございまして、私は地域の活動というものの中から、この医療費の問題を訴えたいと思います。

それは、私のおふくろは北方出身で、もうすぐ80です。おふくろは、北方で毎月グラウンドゴルフを、同窓会をするわけです。その一日の午前中の9時に集まってグラウンドゴルフをやって、お昼には500円の弁当を食べて、その後、カラオケ教室に行って一日を過ごすわけです。それが毎月行われる日程です。それが60代後半から、もう十五、六年以上続いているわけです。

そんな中で、私も時々おふくろをそこに乗せていくわけですけど、その中で、1人のおばあちゃんが笑顔で来られたわけです。あら、あんた久しぶり来たねということで、一月来られなくて来んさったと。その人、よく聞けば、病院に入院しておられて、1カ月おくれで来られたそうです、ということを知ったわけです。偉いですねといって言ったら、きょうのために、先生に無理言って廊下を歩いて、歩いて、体力をつけて、このグラウンドゴルフに来たんですよということを言われました。おばあちゃん偉かねと言ったら、ほかの者もジェラシーのごとあって、私たちも一生懸命しよるとよというごた話やったです。その話を聞けば、

このグラウンドゴルフを朝9時から12時までするには、朝9時ごろから毎日午前中は歩いているんですよ。だから、皆さんここに来ているんですよ。それが地域のスポーツだと思っているわけです。北方には幸いにもグラウンドがあるわけですので、毎月、昼間の時間帯にやれるわけです。そんなグループが他にもおらすとよ、北方のもんはそいけん元気かとかよという話を、そこでおばあちゃんたちは私に教えてくれたわけです。

それを考えますと、武雄市内の校区にはそんな施設というものが全然ないわけです。それは確かに、小学校のグラウンドをいろんな形の中で利用すればできるよという学校施設開放の手引というものもあるわけです。それらを考えますと、小学校のグラウンドを使わないときに利用するという方法もあるわけです。しかし、それではどうしても、子供たちが教室で学んでいるときに、グラウンドでカチャン、カチャンと言わせて、グラウンドゴルフなりなんなりをしていたら、どうしても気が散るんじゃないかなというふうなことを考えるわけです。

だから、私はぜひ、その地域の人たちが遊び、健康を維持するようなスポーツ施設、町民グラウンドというものがあつたらいいんじゃないかと思うわけです。それが今、北方のおふくろの同窓者じゃありませんけど、50名ほどでしているわけです。それが月に、その校区で10組なり15組ができるとします。10組できたとして、その校区で500人。それが武雄市では10町あるわけです。それを10掛けたら5,000人になるわけです。そのように、健康で一日一日を元気に過ごそうというお年寄りの方がそれだけふえるということです。そのためには、ぜひ健康維持のためにもグラウンドというものが欲しいです。それが今の武雄市民の願いじゃないかと思っているわけです。

そこで、私は質問です。今、市内には、教育施設を除いて、昼間に今のようなお年寄りの皆さんがスポーツに親しむような施設は、地域のゲートボール場を除いて、広いグラウンドというものはどれぐらい、どの地域にあるか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

ゲートボールなどで使えるグラウンドということでございますが、学校グラウンド、それから小さなゲートボール場、これは除きます。まず、白岩のゲートボール場ですね。それから、武内の運動広場。それから、東川登の運動広場。それから、矢筈ダムの下の運動広場。それから、北方の支所の裏にありますグラウンド。それから、北方東の運動場。それから、北方の運動公園にあります運動場。それと、若木の工業団地の中にありますけど、楠川公園。それと、これは地元の方でつくっていただいた施設ですが、繁昌ダムのふれあい広場というのがあります。それから、これ以外にまた有料という形になりますけれども、白岩運動公園とか白岩の軽運動場、それから山内の多目的スポーツ広場、それからサンスポーツランド北

方にあります多目的運動広場、それから北方のゲートボール場、こういった施設がございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今聞けば結構あるわけですけど、地域が限定されるような形であるわけです。ぜひ各町にグラウンドというものをつくってくださいというのが私の希望ですけど、その点に対して市長のお考えをお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も1町に1個あればいいなと思っています。しかし、理想と現実にはやっぱりギャップがあります。それで、私は基本的に、朝日の流れで申し上げますと、新たにグラウンドをつくるというのは、財政上、そして土地の確保上、やっぱり無理なわけですね。したがって、私は朝日小学校が今度保育所とセット、これは前の議会でも申し上げましたけれども、そのときになるべく、今度の小学校の新グラウンドですね。広くとって、なるべくそういったスポーツに起用できるようなスペースをとりたい。そして、カチャカチャ音のするてあつたですね。遠くとれば、カチャカチャ音はしても大丈夫です。子供たちは、一生懸命勉強すれば聞こえんごとなるです。そういう意味で、私は併用ということで朝日の場合は念頭に置いています。

それとお願いが、合併になりましたので、もう朝日は朝日とか、武雄は武雄と考えんで、さっきおっしゃったごと、北方に行こうさとか、あるいは山内に行こうさとか、そういう広域的な、もう車を使っただいてできれば私はありがたい、これが合併の一つの効果の意味だというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ私、地域の足というものは、どうしても範囲が厳しいわけですので、その点、車に乗って遠くへ行ける人はそれでもいいでしょうけど、そういうできない方もたくさんおるということを理解して、医療費の増大を考えれば安いものだということで締めくくりたいと思います。

次に、農政問題に移ります。

農政は、集落営農や認定農業者をどう育てるかということで、先ほど17番議員の方から切々と訴えられました。そんな中で、集落営農にしても、認定農業を守るにしても、げた対

策ということで補助金というものが、先ほどオーストラリアの農業が来たら吹っ飛んでしまうよという話もあったように、その関税で運用されているのが今の農業、農政です。それがなくなれば、その補助金もなくなり、ひいては日本から小麦、大豆が消えて、それがまた、その次にはライスセンターの運営が不可能になり、米農業まで厳しくなるというふうな、今、瀬戸際の農政というものが行われています。それは先ほど言われたので割愛したいと思います。

そんな中で、私が今一番訴えたいのは、先ほどの高齢者医療の問題じゃありませんけど、山つきの農業地帯です。そこにはたくさんの農業があるわけです。春になったらワラビがあり、タケノコがあり、フキがあり、山に登れば梅がなっている。いろんなものがあるわけです。そんなものを、どう農業振興に役立てるか。その山つきをぜひ、農政をやるのが、集落営農、認定農業の大規模農業を守ることも大事でしょうけど、それ以上に武雄の農家を守るには、その辺の対策というものをとってもらいたいと思っています。

その中で、今、集落営農の一つとして、朝日町で繁昌地区という集落があるわけです。集落全体で16ヘクタールほどの土地を持ち、今まで思い思いにコンバイン、トラクターを持って農業振興をやってきたわけです。その中で、今まで6ヘクタールの麦がつくれたわけです。しかし、今度の集落営農では補助金対策の中から3町しかできないよというふうな、3町分以上つくれば補助金等が少なくなって、余りもうけがないから、3町つくっていっところと。そのかわりに、タマネギをつくろうと集落営農で話が決まりました。しかし、タマネギには、今度の集落営農の話があったときは時期が遅く、それなら高菜をつくろうということで、高菜が幸いにも契約栽培ができることで、高菜が栽培されるようになりました。

このように、今、集落営農では、先ほどの答弁の中で、米は70%、麦、大豆は100%のカバーが集落営農でできているというふうな答弁がなされたわけですけど、こういうふうな山つきで、以前、集落営農地域内で麦作付が余りできていない地域での麦作振興というものが、どのようにして進めるのか。補助金がなくなることは別問題にして、指導をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

集落営農組織の設立によりまして、米、麦、大豆につきましては、生産性を高めるということできております。ただ、議員御指摘のように、中山間地域につきましてはなかなかそれが進んでいないという御指摘でございます。

これにつきましては、集落営農の組織化によりまして、品目横断的経営安定対策の加入はもちろんでございますけれども、農機具の効率的な稼働とか、余剰労働力が出てまいりますので、その余剰労働力をどういうふうにするかということも出てまいります。その中で、野

菜生産の拡大も有効だということで考えております。野菜生産につきましては、野菜の低価格時の経営安定対策といたしまして、野菜価格の安定制度というのがございます。対象品目といたしましては、一定規模を持つ産地である必要がありますので、野菜をつくるとかというような方法をとっていただければというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、インターネットを調べてみれば、そばが物すごく検索内のふえていきよるですね。1週間前に「そば」と引いたときと今やったら、1.5倍ぐらいまたなっています、「そば」と引いただけでも。それだけ、そばを求めて3,000里じゃないですけども、いろんなところから今、全国から来よんさあですね。佐賀で言うぎ、どこでしたか、浜玉があったりとか、三瀬がそばを中心にしてそばロードをつくったりとか、そばが一つの私は救世主に実はなるというふうに思っています。これはいろんな方々がもうおっしゃっています。

そういう意味で、中山間はソバをもう少しつくってほしいなと思っております。実際、武雄にもそば屋さんがあったり、できたりしています。どこのソバば使いよんさっかと言うぎんた、この前、宮崎産とは使いよると。そいぎ、何で武雄ば使ってくんされんですか。安定供給のなかですもんね。そういう意味で、需要をですね、欲しかということと出したかというところが、完全にもうずれておるわけですね。だから、私はそばというのは健康食でもあるし、全国的にも佐賀といったらそばと、何かイメージのあるような気がします。そういう意味で、そばを一つ念頭に置いていただければ非常に助かります。そばロードということで町おこしが、長野県の安曇野とか小諸とか、いろんな例があります。どうか1回視察に行っていて、そういう意味で、ちょっと1回、また我々に教えていただければというふうに思っております。

それともう一点が、先ほど申し上げたような、私はレモングラスば一例で言いました。だれもつくりよらんところに目をつけていくのが今後の農政だというふうに私は思っています。それと、食品加工とか、そういう製品加工もある程度セットにして考えるべきだというふうに思っておりますので、ソバとハーブ、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ソバということで、私も頭がないとが出てきましたけど、ソバをまくといえ、8月下旬から9月ということで、稲なり麦等のセットというものをどういうふうに持っていくかということと、収穫をどういうふうにするかというものを検討して、そこんたい勉強してみたいと思います。

それで私、先ほどの野菜のタマネギなり高菜の作付というものが、今から中山間地の中では麦に変わるような形で持っていかなば、ぜひ野菜づくりというものが大事じゃないかなと思っているわけです。そんな中に、このタマネギなり高菜等をつくった場合に、品目横断的な補助政策に乗れるか。また、価格安定対策の中でぜひやりたいということですけど、それがどういうふうな条件か、今わかればお聞きしたいんですけど。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

野菜の生産でございます。特に、お尋ねはタマネギと高菜の関係でございますけれども、野菜生産につきましては、野菜価格の低落時の経営支援として、野菜価格安定制度というのがございます。対象品目としては、一定規模を持つ産地である必要がありますけれども、タマネギは対象となっておりますが、高菜は対象外ということになっております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

次に、山すその農業を考えた場合に、山つきの雑木林、山をどういうふうに手入れをするかというものが今大きな問題になってきているわけです。今度の台風でも大きな木が根元から倒れたり、竹が変な色になって枯れたり、また、山の広葉樹林の葉っぱがいろいろ変色しながら、おかしい冬の山の色を見せているわけです。

そんな中で、私は以前、山というものは五、六十年に一度切って、再生産することにより、上と下との、地上部、地下部のバランスがとれてこそ、山の木であり、保水力のある木になると思っているわけです。その点を、その辺を整備すれば、今、問題になっているイノシシあたりも少なくなるんじゃないかと思っているわけです。だから、私はぜひ、この山すそを、一定の距離を持って、100メートル幾らなりを何年に一度か、すばっと切ったら、その分が水害なりいろんな対策にもなるし、また、そこにあるいろんな農産品が、自然物が金になるんじゃないかなと思っているわけです。その点の対策というものも、今からの中山間地域での、山すそでの農業の大事な対策と思うわけです。その点、今、そう考えた場合は、チップとしての利用があるわけですけど、市内にチップを切るような業者の林業屋さんはいくらもおられ、またそのチップの利用に対する持ち込みの単価あたりがわかればお聞きしたいんですけど。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

市内のチップ用材の取扱業者でございますが、市内で1件でございます。

それから、チップの持ち込み等の単価等につきましてはですが、森林組合の方にお尋ねをいたしたわけでございますけれども、雑木材の費用、これは伐採の費用でございますが、10アール当たり100千円でございます。それから、チップ材の売却の収入でございますが、1トン当たり約3,500円というふうに聞いております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、この業者が1件というものは、伐採している業者が1件ということですか。それともチップの持ち込みの業者さんですか。

それと、雑木林を10アール当たり100千円というものは、100千円で切ってもらおうということですかね。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

市内のチップ用材取扱業者と申しますのは、雑木を切って、広葉樹等を切ってチップにするという業者でございます。

それから、雑木材の費用でございますが、これは広葉樹林等の雑木を切って持ち出すという作業でございますが、それが10アール当たり100千円ということでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、雑木林を切ってチップに出したっちゃ、全然合わんということですね。私はこれができたら、もっと山間部の農業者の収益増になるんじゃないかなと考えたんですが、甘かったですね。それがまた自然環境の保全なり、保水力の保全につながるんじゃないかなと思ったわけです。

このまま山をほうっておいたら、大きな木がそのうちに一緒になって倒れて、それが保水力の低下したところから鉄砲水となり、その鉄砲水が濁流、土石流となって災害につながるというようなことを思ったわけです。それを防止するためにも、ぜひ私は、山の雑木というものは五、六十年間隔ぐらいで切ったら、山が再生されていいんじゃないかなということを感じたわけです。それができないということは残念です。今のまま外国の自然をなぎ倒して、結局、世界の山なり用材を持ってきて、日本の木を使わないという厳しい現実が見えました。

その点、どがんだりとも考えられんですね。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

森林保全については、私はこのように考えております。まず一つが、この森林保全というのは、広い意味での商売にやっぱりつながらんわけですね。先ほど部長から答弁があったように、伐採するのとチップにして、こがん開きがあると。やっぱりこれは商売にならんと。したがって、森林保全は、私はこれは税金でやるべきだと思っています。森林税、これを目的税として、武雄だけとかじゃなくて、少なくとも、例えば、北部九州圏とか、あるいは佐賀県とか、そういう和歌山県のように 和歌山県かな。済みません、ちょっとそれはつまびらかじゃないですけども、税金として、それを私はやるべきだと。すなわち、その森林が持つ機能を考えた場合に、よか酸素ば供給したり、やっぱりそこでイノシシば食いとめたりしよんさあわけですね。だから、そういうことで、私はどちらかというぎんた、これをどう活用するかということも大事ですけども、税金の方のアプローチの方が私は現実的かなというふうに聞きながら思っておりました。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうことで働きかけて、山間地域の雑木林を切って、環境整備に持ち込めるような形で運動してもらいたいと思います。

次に、イノシシ対策ですけど、イノシシの現状と今後の対策はどういうふうになっているか、お願いします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

イノシシの駆除の現状ということでございますけれども、イノシシの駆除につきましては、有害鳥獣駆除ということで、JAなど関係団体及び行政で武雄地区有害鳥獣広域駆除対策協議会を設置いたしておりまして、各団体の応分の負担と、それから県の補助により対策を講じております。

ことしのイノシシの駆除でございますが、7月1日から10月31日までの間に、佐賀県猟友会武雄支部の協力を得まして実施いたしました。その結果、1,419頭を捕獲いたしております。これは前年、746頭でございます、ことしは昨年の1.9倍ということになっております。今後のイノシシの対策につきましても、猟友会等の協力を得まして、駆除に努めていきたい

と思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

イノシシです。私は料理ばします。イノシシというぎ、もう迷惑千万は迷惑千万ばってんが、各県別のデータば見れば、宮崎県とか鹿児島県、あるいは兵庫県、足りんらしかですね。宮崎、鹿児島は、何か聞くところによると、お節にイノシシの肉を出すとか、あるいは生ハムでそれが出たりとかですね。宮崎のある人に聞きました。一番おいしかイノシシはどこですかと。山内のイノシシが一番おいしかて言いんさったですね。そういう意味で、私はイノシシは、これはひよっとするぎ活路のあるのかなと。

それともう一つが、兵庫県の丹波篠山のシシなべ、これだけで冬はかなり多くの観光客が訪れよるわけですね。各旅館はシシなべですね、ポタンなべ、それをどんどん出しよんさあわけですね。だから、そういうことで、イノシシはひよっとするぎんた、これは大化けする可能性の私はあるものだというふうには実は思っています。

そういう意味で、これをきちんと加工してできるところがないのかなと。それを目下、私は今、自分自身で調べよる最中です。ひよっとするぎんた、これは化けるかもしれんなど。猪突猛進はいけませんけれども、一つ、これは大きく考えていきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私もこの問題は次に考えていたわけです。このイノシシをどう食べるか、食わせるか。この処分というものが、今からの農業では大事な問題と思っているわけです。

先ほどの17番議員の中で、牛の狂牛病とか、いろいろ鳥インフルエンザ等の問題も、畜産農家を苦しめたり、またそれが助けたりするというふうな話があったわけです。今、イノシシは、どうしても山で、イノシシの一部だけを持ち込めば幾らかの金をもらえるということで、あとはそこで穴なりに埋めて処分するというような形ができています。そうした場合には、どうしてもこれが、鳥インフルエンザじゃありませんけど、いろんなウイルスが発生することにより、その地域の畜産というものが壊滅的になるおそれもあるわけです。恐ろしい生き物ということにもなるわけです。しかし、これを適正に処分して、適正に利用すれば、すばらしい宝の山になるということが、今の市長のアイデアの中に出てきたわけです。私の知り合いでも、薫製にして、生ハム的においしいものを食わせる人もあります。そんな彼らと、うまいとこ持って行って、ぜひおいしいイノシシ料理ができることを期待したいと思います。

それと同時に、山すその農村地帯では、いろんな農産物が最初できると言いました。そしてまた、ちっちゃな畑では、いろんな野菜、いろんなものができるわけです。武雄で今元気なばあちゃん、がばい元気なばあちゃんといえ、物産会館のばあちゃんたちです。物産会館なり、また山内の黒髪の里や北方の小さな農園という形で、福岡のスーパーとも契約して、農産物を直売しているような中で頑張っておられます。そんな農産物を、いかにまとめてPRするか。それも市長の仕事だと思っています。

前に、高木議員が言いましたように、福岡でアンテナショップ、その中に農産物の安定的な供給、また川登のサービスエリアに持って行って、そこにアンテナショップ的な方向と、いろんな道が農産物の中にも考えられるわけです。ぜひ武雄だけでできたものを、そういう形で販売できるようなシステムをつくれれば、農業も捨てたものじゃないと思っています。オーストラリアやよそから大量に来た米と、武雄でできたうまい米では、やっぱり武雄のうまい米が売れると思います。そのために、ぜひそういうふうな販売戦略というものは農業政策の大事な一片だと思っていますので、よろしくお願いします。それが、最初に言いました高齢者の医療費対策にもつながるんじゃないかなということを思っています。

それで、この高齢者の医療費対策の中で、最後になりますけど、交通安全運動のことです。

今、高齢者の交通事故というものは大いに叫ばれております。そんな中で交通事故を、いっちょ、ちょっと遭ったばかりに、一生病院のベッドの上で生活するというふうなこともあり得るわけです。それが、地域での医療費の増大につながるということもあるわけです。

また、それと同時にドライバーでもあります。高齢者のドライバーが危険なときもあるわけです。そんなことを考えたら、ぜひ高齢者の方のドライバーというものを大事に守ることも、医療費増大を食いとめる道じゃないかと思っておるわけです。元気にお年寄りの皆様が運転して、孫たちを連れてドライブする。そしたら、そんな中には病院に行く暇なんかないわけです。いかにして私は、先ほどのグラウンドの問題、農業の問題、交通安全の中から、病院に行く暇がないようなお年寄りをつくるのが、我々、今財政が厳しい中でとり得る一つの道じゃないかなということを考えているわけです。その点、市長、交通安全対策に対する御提案などありましたら、お聞きしたいわけです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ちょうど1週間ぐらい前に、車ば運転していたところ、狭いところからいきなり、80代の男性だったと思います。ほとんど確認なしで、私の車の前に、ばって突っ込んできんさったですもんね。私このごろ思うのが、これはいいことだと思います。70代、80代の方々が軽トラとか軽に乗って、本当に元気に動かれている。そして、いろんなところに行かれている。これは非常にいいことだと思います。しかし、やっぱり、これは言い方悪いですけども、

未確認とか不確認の方々がどうも多いような気がするわけですね。

だから、そういう意味で、ドライブするのは安全、安心と楽しみというのを、1回、自分が不安に思う、あるいは年齢がある程度行った場合に、それをもう一回講習とか研修とか、そういう形というのは私必要じゃないかというふうに考えています。ただ、これは強制もできませんし、我々行政がどうこうという話じゃないですけども、私自身の経験でいったら、やっぱり車はある意味では凶器になりますので、それが楽しさということにつながるような手だてを関係者の方々にはしていただきたいし、そういうメニューをつくっていただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、私はこのような形で、なるだけ高齢者の皆さんが病院に行かなくて元気に過ごすような環境というものの整備に、ぜひ努力してもらいたいということにつなげてまいりました。

最後になりますけど、わかかもんプロジェクトの中でのグループ、三樹物語についてお尋ねします。

市長は、このわかかもんプロジェクトをどう育てていくつもりなのか、お尋ねします。わかかもんプロジェクトに対する市長の考えです。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、わかかもんプロジェクトは大小ありますけれども、九つのプロジェクトチームがあります。それぞれが集まりやすいとき、活動をしやすいといったことでやられております。そういう意味で、私は今後、これらのチームが、また新たなものができるのは別にして、もう自律歩行していただくと。それと、できれば安定的にそういう活動を行ってもらうために、NPOになっていただければありがたいというふうに思っておりますし、そういう意味での支援をしていきたい。

もう一つが、よく言われるのが、わかかもんは、私は年齢に関係ありませんと。やる気があるのは、僕は年齢は関係ないと思っています。しかし、どうしても今、きのう構成員ば見よったら、若い人たちが多いというのは否めない状態だと思います。しかし、次に質問があるかもしれませんけれども、三樹参りをされているときに、私も参加しましたが、60代の方々も参加をされておって、こういう組み合わせというのものもあるなど。だから、その舞台というか、そのおぜん立ては若くて時間がある人たちがやって、そこに世代を超えて、性別を超えて参加していただけるようなことになれば、武雄がまた一丸となって、いいまちになるのではないかなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今の三樹物語についてお尋ねするわけです。三樹とは、武雄の大楠の3本のことです。皆さんも御存じだと思います。

それで、私も何遍か行くわけですけど、参加するわけですけど、まず武雄の文化会館の横にもあります塚崎の大楠に行って、その後、武雄神社の大楠に行って、その後、武雄の温泉、そしてその後、若木の大楠と回るわけです。それが三樹物語としてやられているわけです。その施設には、武雄市内の方より、遠く京都や埼玉の方が、報道機関の報道を知って来ましたよということで来られるわけです。武雄の方は、あがんきつかとこれ、ということで、あんまり少ないわけですけど、よその方が見えますと、武雄小学校の横を歩いていると、あの小学校の校舎を見て、これは何ですかと。学校ですよ。こんなにすばらしい木がある大学がここにあるんですかということ京都の方が言われたことを覚えているわけです。僕らが何となく見ている武雄小学校の下から見る木というものは、大きな樹木の中にあるというものは、それだけよその人から見ればすばらしい、守っている学校というものは、こんなすばらしい学校があるんだなということと言われるわけです。それだけ自然というものは大事にしなくてはならないということ、私たちはよその方から学ぶわけです。

そんな中で、ぜひ私は塚崎ですかね、武雄文化会館の横にある大楠にしても、武雄神社の大楠にしても、竹やぶの中に生い茂ったり、民家の塀がむき出しで見えている中で見るわけです。これらに、ちょっと手を加えることにより、下の高校の横から見る、バイパス通りから塚崎の大楠というすばらしいものが見えるんじゃないかと思うわけです。そんな環境を守ること、そしてPRをして、これが一つの武雄の観光の目玉にもなるんじゃないかと思うわけです。ぜひそんな環境整備に力を入れてもらいたいと思います。

それと同時に看板です。私も塚崎の大楠あたりは、こがんとところにあるかというものを、私も50数年、武雄に住んでいて初めて見たわけです。何か一つ看板というものが、前、市長が言っておられたような、手づくりの木の看板、ぬくもりある看板というものができないかなと思うわけです。それをいろんなところに設置することによって、ああ、ここにあるんだなということがわかれば、もっと観光なり健康増進に三樹というものが、3本の大楠が生きるんじゃないかと思いますが、その点も含めて、この整備が検討されないか、お聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私はこの三樹は、武雄のみならず、日本の宝だというふうに思っています。3,000年、3

本足すぎんた、もう1万年になりますもんね。そういう密集したところに、それだけの大樹があるというのではないわけです。そういう意味で、私は大事にしたいと思います。

私も三樹参りに行って、一番がっくりきたところが、塚崎の大楠でいえば、ちょうど文化会館から上っていったときに、コンクリートの塀がむき出しですもんね。あれでどれだけ塚崎の大楠の借景じゃなかばってん、私は写真ば撮ります。撮れんわけですね。入ったときに、やっぱり玄関と一緒に、あそこのコンクリートの塀というのが、やっぱりそれはそぐわないと思っていますので、これはできれば予算措置をして、れんが調なり、そういう木調なりということができないか、検討したいというふうに思っています。これはもう数百万円かかる話じゃないと思います。

それと、もう一つが武雄の大楠です。こう入っていったときに、私は茶畑があるのは否定はせんです。しかし、雑然としておるわけですね。これをどういうふうにすればいいか。土地所有者の方々とも協議が必要ですし、ちょっと今、答えは持ち合わせていませんけれども、あそこが、行くところがもう少し雑然としたものじゃなくて、茶畑は茶畑というふうにきちんとなっていれば、そこはあの辺、そがん手ば加えんでもできるのかなというふうに思っています。

特に、三樹のうちのこの二つについては、私を中心として、1回プロジェクトチームでもつくって、三樹物語の皆さんとともに、1回打ち合わせというか、協議の場を持ちたいというふうに考えております。そこで、いろんなまた、こういったふうにした方がよかとか、こういうふうに持っていきましようとかいうふうな話ができれば、私はありがたいというふうに思っています。それが、すなわち武雄の観光に直結する話だというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

これもちまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。